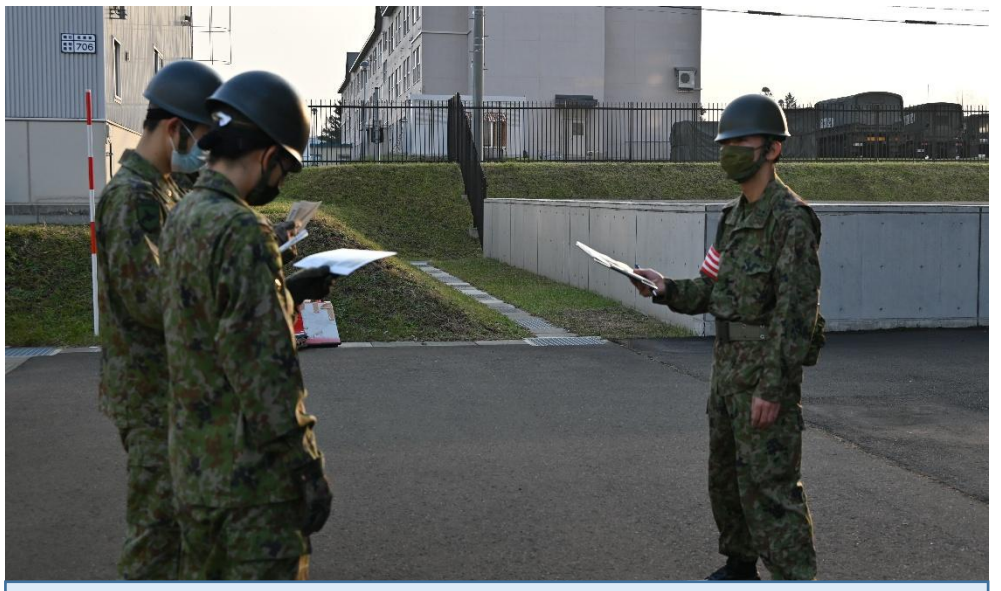
【令和８年度災害対処訓練】

令和８年１１月１４日（土）、自衛隊札幌病院（病院長 菊池陸将）は、「令和８年度災害対処訓練」を実施した。本訓練は平成２４年から毎年実施しており、令和４年からは北海道ＤＭＡＴ（災害医療チーム）も参加し、連携強化を図ってきた。今年度は「札幌市直下型地震」を想定し、前段（発災直後）と後段（発災から１日後）で時間設定を変えて訓練を行った。前段では、緊急登庁から指揮所の開設、救護班の派遣準備、子弟預かり所の開設・運営、救急患者の受入れといった一連の初動対応を確認した。後段では、札幌市内６個病院のＤＭＡＴ約３０名と、昨年に続きドクターヘリが参加し、実戦的な連携訓練を実施した。北海道ＤＭＡＴとの共同訓練は今年で５回目を数える。これまで培ってきた相互理解に基づき、互いの能力や補完し合える分野についてさらに理解を深め、大地震により多数の重症患者が発生した場合でも、平時と同等の救急医療レベルを提供できる体制を確認した。今回の成果は次年度への大きな積み上げとなった。今後も関係医療機関との連携をさらに強化し、地域住民、道民、そして国民の安全と安心を守れるよう取り組んでいく。



統裁官（病院長　菊池陸将）



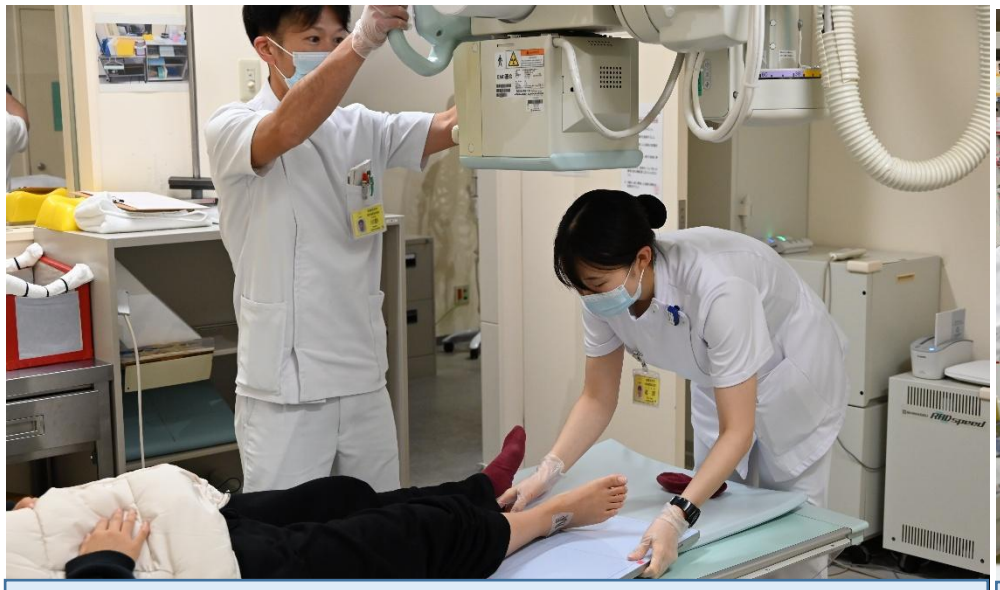
当直による作業指示



子弟預かり所開設準備



救急患者の受入れ



救急患者レントゲン撮影



紙処方箋に基づく調剤



臨時健康診断（救護班）



派遣準備完了報告（救護班）



ＤＭＡＴとの連携（トリアージ）



陸自ヘリによる患者受入れ



ＤＭＡＴとの連携（処置）



ドクターヘリによる患者の転院